ミュンヘンのオクトーバーフェスト、16日間で過去最多の740万人が来場

好天と平日の来場促進を追い風に、来場者は過去最多の720万人を上回る740万人に達した。

2026年10月5日（月）



ミュンヘン市当局は日曜日、今年のオクトーバーフェストに16日間で過去最多の740万人が来場したと発表した。2026年の開催は、夜の終了を迎える前に、祭りの歴史上最大規模となった。

来場者数は、2023年に記録した過去最多の720万人を上回った。主催者によると、2023年は祝日に伴う延長で18日間開催されたのに対し、今年は16日間だった。当局や地元メディアは、晩夏の晴天が長く続いたことが来場者増につながったと伝えた。平日に来場を分散させる取り組みも、来場者数の増加を後押ししたとみられる。

ミュンヘン市長として初めてオクトーバーフェストを迎えたドミニク・クラウゼ氏は、祭りについ

て、平穏でリラックスした、和やかな雰囲気だったと評した。会場のテレージエンヴィーゼは開幕直後から多くの人でにぎわった。初週終了時点で、来場者はすでに380万人に達していた。第2週のファミリーデーには、前年より来場者が57%増えたと主催者が発表した。

伝統的な祭りの一角「オイデ・ヴィーゼン」も、前年を上回る来場者数を記録した。主催者によると、来場者は44万7,000人で、昨年の36万人から増加した。来場者のうち最も多かったのは、今年もミュンヘンとその周辺地域からの人々だった。海外からの来場者では、米国、イタリア、オーストリアからのグループが最多だった。

来場者数の増加に伴い、ビールの販売量も伸びた。ミュンヘン醸造所協会によると、祭りのビールは約670万リットル提供され、2025年の約650万リットルから2.7%増加した。運営事業者によれば、大型テントでの料理の売り上げは2〜3%伸びた。近年は需要が落ち込んでいたローストチキンも人気を取り戻した。

祭りの暫定集計によると、ノンアルコール飲料の販売はさらに大きく伸び、10%増加した。主催者と醸造各社は、ビールと水を混ぜた「ザウレス・ラドラー」も好調だったと報告した。祭りのデータを引用した業界報告書によると、ノンアルコールビールの販売は前年から10.7%増え、小麦ビールは12.6%増加した。オクトーバーフェストは、ビール消費と飲食・接客への支出を示す世界有数の場であることから、こうした変化は醸造各社や飲料会社が注視している。低アルコール・ノンアルコール飲料の比率上昇は、伝統的なビール祭りでも顧客需要が広く変化している可能性を示すためだ。

過去最多の来場者数は、ドイツの醸造業や飲食・接客業にとって、事業の場としての祭りの規模も改めて示している。醸造所、飲料卸、食品販売業者にとって、この祭りは地元客と海外観光客を相手に、価格設定や商品構成、消費者の動向を大規模に試せる貴重な機会となる。今年はビール販売量が増える一方、ノンアルコール飲料がさらに速いペースで伸びており、生産者が今後の季節商品や祭り向けの供給計画を立てる際に影響する可能性がある。

市当局によると、大勢の人が集まったものの、危険なほどの過密状態にはならなかった。最も混雑したのは週末だった。土曜日には来場者が多数押し寄せたため、主催者が一時、テレージエンヴィーゼに近づかないよう呼びかけ、入場口を一時閉鎖した。1週間前の祭り中日を迎えた土曜日にも、同様の状況が起きていた。

祭りのディレクターを務めるクリスティアン・シャルプフ氏は、更新した警備計画が想定どおり機能したと述べた。新設の警備指揮センターや監視カメラの増強、人だかりを検知する仕組みにより、人の流れをより細かく把握し、過密化し始めた際に早く対応できたと説明した。また、新たに設置したカメラや人工知能（AI）ツールに加え、主催者、警察、消防、救急医療チーム、民間警備会社の間で連絡を迅速化したことも、運営上の重要な要素だったと述べた。

職場で起きたとみられる事故が2件あり、祭りに影を落とした。9月21日、「ハングオーバー」のフリーフォールタワーで働いていた従業員がゴンドラにぶつかられ、その後死亡した。日曜日には、オイデ・ヴィーゼンで働く従業員がスイングボートに衝突され、重傷を負った。ミュンヘン警察によると、47歳のルーマニア人従業員は立ち入りを認められていない区域にいた。

警察のトーマス・シェルスホルン報道官は、こうした事故を除けば、祭り全体の雰囲気は平穏で、

概ね落ち着いていたと述べた。一方、来場者の増加に伴い、警察の出動も増えた。警察によると、出動件数は計1,851件に上り、認知した犯罪は昨年の748件から854件に増加した。シェルスホルン氏は、来場者数の増加に加え、今年は取り締まりを強化したことで、特にコカインが関係する薬物犯罪が増えたことが背景にあると説明した。

警察によると、性犯罪の届け出は80件で、2025年より8件多かった。このうち52件は性的嫌がらせの申し立てだった。警察によると、5件では強姦の疑いで捜査が進められており、件数は昨年と同じだった。

医療チームの対応件数も過去最多となった。アイヒャー救急サービスによると、日曜日の正午までにオクトーバーフェストの救護所で約8,400人を治療した。これは過去最多を記録した2023年を約300人上回る。サービス側は、主な要因は来場者の増加だとしている。患者の約40%は、アルコール中毒のみを理由に救護を必要とした。測定された最高値は3.8パーミルだったが、重度の酩酊状態で測定器に息を吹き込めない患者もいたため、実際の最高値はこれより高かった可能性があると医療関係者は指摘した。

日曜日、祭りが最後の数時間に入ると、正午に伝統の閉幕式が始まった。バイエルン像の下にある階段から黒色火薬の祝砲が放たれ、ブラスバンドの演奏が続いた。ビアテントでは祝宴が深夜直前まで続き、年内最後の歌に合わせて、給仕係が手持ち花火を配った。